

## 第17回南のシナリオ大賞

### 優秀賞

### ファーストプレゼント

#### 加治裕美

「ファーストプレゼント」あらすじ

中村恵は養子縁組のコーデイネーター。息子の奏が営む喫茶店でコーヒーを飲むことが唯一の休息の時間。恵は奏から福岡の天神にある鈴買の幽霊が祭られているお寺に、子供を身籠った幽霊が出ることを聞く。恵はお寺に足を運び、むせび泣く女性を見掛け、声を掛けるが走り去ってしまう。

月乃は新たな生活を始める日、お寺で恵と合う約束をするが、恵の代わりに奏がやって来る。奏は実は恵が施設から引き取った子であり、恵もかつて断腸の想いを抱えてお寺に通っていたことがあったことを知る。月乃は前を向き歩き始める。奏の喫茶店にはゆつくりとコーヒーを飲む恵の笑顔があった。

#### 登場人物

中村 恵 (63) 養子縁組コーデイネーター

中村 奏 (25) 恵の息子。喫茶店店主。

中村カナ (25) 奏の妻

月乃 (18)

優菜 (30)

相談員

看護師

慣とし、月乃の子にも持たせる。

赤ちゃんの産声。

女の声「ごめんね・・・ごめんね」

サイフォンが沸騰する音。

ドアが開く音。

奏「いらつしやいませ」

恵「はい！いらつしやいました！」

奏「何だあ、母さんか」

恵「母親に何だあかい」

奏「営業妨害」

椅子に座る音。

恵「今日も疲れた〜」

カップがテーブルに置かれる。

恵「あく、この香り癒される〜」

コーヒーを飲む。

奏「知ってる？最近さあ、天神の飴買い幽霊のお寺に」

恵「何？」

奏「幽霊の目撃者多数」

恵「何それ、飴を買いに？」

奏「現代版幽霊は飴は買わないでしょ」

恵「じゃあ、何で出るの？足はあると？」

奏「知らねえよ、ショートカットの若い女の幽霊が泣いてるらしい」

恵「幽霊はロングヘアでしょ」

奏「古典的発想」

恵「幽霊のイメージじゃない？」

奏「確かに、母さんみたいな顔の幽霊が出て

く音。

きても怖くないな」

恵「あう、すみません」

恵「ギャグになっちゃうって？ひどっ！」

奏「分かっててよろしい。飴買い幽霊と共通してるのは、妊婦」

恵「幽霊の共通点が妊婦」

奏「泣き声が聞こえて一瞬で消えるらしい」

恵「魂があれば出たいとこに出てきたっておかしくはないけどね」

奏「真顔で言わないでよ」

恵「やだ、幽霊話でコーヒー冷めちゃった」

お寺の鐘の音。

ひぐらしの鳴き声

恵「妊婦の幽霊さんかあ」

足音。

女のすすり泣く声が聞こえてくる。

止まる足音。

急に走り出す足音

恵 「あの、少しだけ・・・」

走り出す足音。

恵の声 「幽霊？足はしつかりあった」

車が行き交う街頭の騒音。

エレベーターが開く。

ドアを開ける音。

恵 「おはよう」

優菜 「おはようございます。至急の案件また届

いています」

恵 「またですかい」

優菜 「荒川月乃さん18歳 家庭内性被害 自

傷行為有り、間もなく臨月」

恵 「すぐに面談ね 明日の引き渡しの方は大

丈夫？」

優菜 「相変わらず実母が 4人目はただの失敗

だったと。失敗とか言われた子が救われない

ですよ」

恵 「失礼ね まあそれぞれ事情は有るけどね。

大丈夫 大丈夫 その子、幸せになる よか

よか」

優菜 「恵さんの「幸せになる」っていう言葉 子

供達に幸せの魔法が掛かるみたいで、私、

すつごく好きです」

恵 「優菜ちゃんも「幸せになる」」

優菜 「幸せパワー頂きです！」

ミンシンの音。

奏 「母さん」

恵 「あら 奏、どげんしたと？何も用意して

ないよ」

奏 「今日はカナが母さんの好きな明太子餃

子を作ったから」

恵 「嬉しい、カナさんの餃子！」

奏 「また、養子縁組の子の産着？肌着？」

恵 「少子化でも 新生児の引き渡しは変わら

んたい」

奏 「これ着て、新しい両親のところに行くんだ

な。ちつちえ」

恵 「お守り代わり」

奏 「お守り？」

恵 「コーディネーターに本物のお守りもらっ

ても仕方ないでしょ。肌着ならば使ってもも

らえるからね」

奏 「何枚あってもいいしね」

恵 「これを着る子が幸せでありますようにっ

て祈って作るの」

奏 「母さんらしいや」

恵 「そうだ、この前聞いた「飴買いに来るん

じゃない幽霊」

奏 「何そのネーミング」

恵 「ショートカットの幽霊ね」

奏 「母さん 妊婦って聞いたから気になって

見に行ったね？」

恵 「足さあ、あつたとよ」

の子だった」

月乃 「育ててもあげられないのに」

奏 「人間かい？」

恵 「お腹の中の赤ちゃんとの時間は、その答えを出すための時間だったのよ」

恵の歌声「お化けなんかいないさ、お化けなんか

お寺の鐘の音。

嘘さく」

月乃 「愛情も知らない私は母親にはなれない」

大小の2つの靴音。

恵 「誰にも相談出来ない間、ここに通つてきてたのね」

恵 「そう思つたのね、でも、ここへ来たのね」

ドアをノックし、開ける音。

月乃 「うん」

月乃 「死んだ後も自分の子供の命のために毎晩、飴を買いに来る母親の愛情ってなんだろうって」

優菜 「恵さん、石橋様と相談員さんです」

恵 「苦しかったね」

恵 「子を想う母の気持ち」

恵 「こんにちは。コーディネーターの中村と申します。あつ……」

月乃 「ずっと一人だった」

月乃 「私もそんな愛情をもらって、そんな愛情をあげたかった」

相談員「中村さん、月乃ちゃんをご存知でしたか」

恵 「いえ、あの……」

恵 「だから、ここに通つたと」

恵 「失礼致しました。どうぞ、お座りください」

月乃 「いいお母さんじゃない。いなくなれつて水風呂に入ってみたり、壁にお腹をぶつけてみたり」

恵 「分かるが違うならば、分かりたい」

恵 「でも、この子は生きようとしたんよね」

子の命は私次第なんだと思つたら・・・」

恵 「本能・・・。飴買ひ幽霊のお母さんとも本能で動いた」

月乃 「私は違う。生んだ後にこの子と別れる」

恵 「皆 普通の顔して歩いてるように見えても、皆、色んな想いを抱えて生きてるの。一緒に暮らせない親子だつてゐるの」

月乃 「どうしてもどうしてもこの子を育ててあげられない」

恵 「大丈夫。分かつてるから」

月乃 「ごめんなさい。ごめんなさい」

恵 「大丈夫 大丈夫。よかとよ」

扉の開く音。

恵 「今日はカナちゃんも一緒に、奏からお店に呼んでくれるなんて、またどげんしたと？」

カナ 「産着と肌着の注文をお願いしたくて」

恵 「え？そういうこと？」

奏 「来年はばあちゃんだな」

恵 「カナちゃんがママで奏がパパ！そして、私にそっくりな子が生まれる？」

奏 「待つて！それは勘弁」

恵、奏、カナの笑い声。

赤ちゃんの鼓動。

医師 「順調ですね。はい、写真」

月乃 「ありがとうございます」

赤ちゃんの鼓動強く響く。

恵 「月乃ちゃん、どうだった？」

月乃 「順調、これがお腹の中の赤ちゃんの最後の写真」

恵 「可愛いね」

月乃 「最後の1枚だけお別れの日まで持つていてもいい？」

恵 「よかよ。でも、生まれて5日後には養父

母に渡す予定は変えなくて大丈夫？」

月乃 「うん」

ミシンの音。

恵 「お守り、お守り、幸せになれ、なる」

赤ちゃんの産声。

看護師 「頑張りましたね」

月乃 「・・・触つても・・・いい？」

看護師 「もちろん、どうぞ」

月乃の声 「・・・怖いな。大丈夫、大丈夫」

看護師 「お尻撫でるだけ？抱っこはいいの？」

月乃 「(泣きながら) はい・・・あつたかい」

恵の声 「そうして月乃ちゃんは5日間だけの母

になった。ぎこちなかったけれど、赤ちゃんを

一杯、一杯抱きしめた。私は月乃ちゃんを

一杯、一杯抱きしめた」

恵 「月乃ちゃん、どうしたと？」

月乃 「愛情がなかったらおっぱいなんか出ない  
と思つてたのに、こんなにおっぱいが出て、そ  
れを飲んでくれる」

恵 「ママの初乳は免疫力にもなつてくれるん  
よ。大きくなあれつてね。ほら、すやすや眠つ  
て」

月乃 「すぐにお別れなのに」

恵 「遠いいつか、この子が月乃ちゃんに会い  
たいつて言つたらどうすると？」

月乃 「分からない。でも、遠くから元気な姿を  
見てみたいかな」

恵 「ね、時間で人の気持ちつて変わるさ」

月乃 「うん」

恵 「迷つてよかよ。一度で人生の答えが出せ  
る人なんて人おらんよ。何度も迷つて、ぶつ  
かつて、自分の答えを出せばよかとよ」

月乃 「いつか遠いいつか一度だけ、会いたいか  
な」

恵 「じゃあ、やりたいデザインの勉強頑張つ

て、遠いいつか笑顔で会えるよう準備せんと

いかんよ」

月乃 「今は全然自信ないや」

恵 「大丈夫、大丈夫。よか、よか」

月乃 「恵さんいつも大丈夫、大丈夫つて言つて  
くれる」

恵 「だって、月乃ちゃんならば大丈夫だか

ら」

月乃 「大丈夫、大丈夫。」

赤ちゃんの泣き声。

月乃 「きつと今度はオムツ」

恵の声 「月乃ちゃんが赤ちゃんの抱っこに慣れ

た頃、5日間の母と子にお別れの日が来た」

恵 「月乃ちゃん、赤ちゃんの産着と肌着、

作つたから持たせるね」

月乃 「うん」

恵 「母子手帳は新しいママに引き継ぐ」

月乃 「うん」

恵 「大丈夫？」

月乃 「うん」

恵 「写真、どうすると？」

月乃 「撮らない」

恵 「そう」

月乃 「・・・ホントはね、一人の時にね、写メ

沢山撮つたの。一緒の写真も撮つたの」

恵 「そうなん？」

月乃 「それで、さつき全部消したの。5日間が  
一瞬で消えてつちやつた」

恵 「でも、月乃ちゃんが赤ちゃんのママなこ

とは変わらんよ」

月乃 「私が生んだ子でも幸せになれる？」

恵 「幸せになるばい。新しいママもパパも一

生懸命準備してきたからね。それでもきつと

迷つて、迷つて、赤ちゃんと一緒に成長して

いつてくれるはず」

月乃「新しいママに「お願いします」って」

恵「伝えるよ」

月乃「写真は全部消しちゃったけど、最後のお腹の中の写真だけは捨てられなかった」

恵「捨てなくてよかよ。大切なもの忘れなくてよかよ」

お寺の鐘の音。

キャリーバックを引いて歩く音。

奏「あ、う、月乃さんですか？」

月乃「えっ？はい」

奏「中村恵の息子です。母、今日、ここで会う約束してたけど、仕事で来れなくなったと伝言頼まれて」

月乃「そうなんだ・・・」

奏「でも、それ、多分、嘘で」

月乃「嘘？」

奏「見送るのが寂しくて、泣き顔見せたくなくて来れない、が本当、かな？」

月乃「産着と肌着、ありがとございますって

伝えてください」

奏「母の作った肌着を着た子は幸せになるよ。お守りらしいから」

月乃「赤ちゃんへの人生初めてのプレゼントは恵さんから」

奏「俺も着たらしい。母の子になる前から」

月乃「恵さんの？子になる前？」

奏「聞いてない？母が施設から引き取ったのが俺」

月乃「えっ・・・？」

奏「実の子は早産で失って、流産繰り返して、どうしてもって引き取ったのが俺。でも、父親も早くに亡くなって、母さんは苦労したよ。俺も反抗期も酷かったしね」

月乃「恵さん、一人で・・・」

奏「母さんもさあ、俺を引き取る前はここに

通っては泣いてたらしいんだ。母の断腸の想いつてヤツ？俺は代わりに愛情もらったよ」

月乃「ここに、恵さん・・・恵さんに「ずっと

ずっと忘れないから」って伝えて欲しい」

奏「今度はさあ、自分を生きなよ。大丈夫

大丈夫。よかよ」

月乃「大丈夫、大丈夫。恵さんそっくり」

キャリーバックを引いて歩き出す音。

サイフォンの沸騰する音。

奏「飴買っんじゃない幽霊、母さんをずっと

ずっと忘れないからって、送ってあげれば良

かったのに」

恵「そう」

奏「平気ぶって。わざと俺とも話させたでしょ」

恵「ありがとね・・・。あ、今日のコーヒ

バリうま！」

お寺の鐘の音。

ミシンの音。

(完)